

【随筆】

春ですね

住吉 尚

(釧路支部)

3月15日は北獣の理事会で札幌へ行きました。街にはほほ雪がなくなり、春近し、が強く感じられました。このまま順調にいけば、今年の春はずいぶん早そうですね。

釧路に帰って、18日には久しぶりに釣りに出かけました。今時期ですから釣りの獲物は限られています。今日は産卵中のチカが狙いです。私が釣り場に着くと既に10人ほどが思い思いの場所で竿を出していました。さて！と水面を見ると、昨夜の冷え込みのせいでしょうか？全面が結氷しています。氷が薄そうに見えたので、竿に20号の重りを付けて氷をトントンと突いてみましたが残念ながら重さが少し足りないようで穴が開きません。そこでどなたかが開けた穴を使うことにしましたが、穴が小さくてちょうど4.5mの竿で糸が真っすぐに入る距離です。穴の縁に針が触ると氷に引っかかってしまいます。苦勞しながらの釣りが強いられますが、仕方がありません。私たちから150mほど離れた場所に高さ4～5mほどの盛土があり、この上に1羽のタンチョウがいます。時々コー、コーと鳴いているので、仲間を呼んでいるのでしょうか。まだ魚も釣っていないのに、氷に引っ掛けて仕掛けを失くしたので、新しい仕掛けを出して竿も長いものと交換して、再チャレンジです。すると先程氷に引っ掛けて失くした仕掛けが絡まってきました。今度は絡まった仕掛けを解かねばなりません。歳を取って老眼が進んでいますから、細い糸が良く見えません。イライラして一方の仕掛けを切って捨て、やっと釣り再開です。ぼつぼつですが釣れ始めました。こうしている間にも氷は目に見えて薄くなってきました。氷の下で落ち葉が下流へと流れていきます。これに対して氷は上流へと移動しながら急速に薄くなっていきます。風の影響でしょうか？またタンチョウの音がします。私たちが釣りをしている水路の背面は住宅街です。この住宅街の更に向こう側には大きな沼があります。その沼の方から住宅街を越えて1羽のタンチョウが、先程からタンチョウがいる盛土に飛来しました。すると、2羽で早速鳴き合いが始まりましたので、夫婦のようです。おっと！ググッと手ごたえがあり、また1匹釣れました。頭の上をオオハクチョ

ウが4羽で飛んで行きます。こちらはタンチョウよりずっと軽い声でコーコーと鳴きながら飛んで行きます。もうすぐ北帰行が始まるのでしょうか。今後は盛土の上からコッココッコとタンチョウが交尾する時の特有の鳴き音がします。雌が雄に交尾を求めて、頭を下げ羽根を半開きにして少しかがんで、鳴きながら交尾を誘います。雄が雌に乗り交尾が成立するのですが、この時はココココと鳴き声がだんだん早くなります。もうすぐタンチョウも産卵期です。氷が薄くなって水路の奥で重なっていきます。氷がある時は氷の下でチカがキラキラと見えていたのですが、氷が邪魔でなかなか釣りにくくて、早く氷が失くなれば良いのにと感じていました。でも今度は氷が溶けて釣り易くはなりましたが、魚は氷と共に行ってしまったようで、なかなか釣れなくなりました。時々ケケケケと甲高いオジロワシの音が聞こえてきます。こちらはもう抱卵しているのでしょうか、1羽だけで飛んでいます。飛んでいるのは雄でしょうか。沼には沢山のカモ類やオオバンがいますから、これを獲物に狙っているのでしょうか。ようやくチカの群れが私の前に



北帰行に近いオオハクチョウ

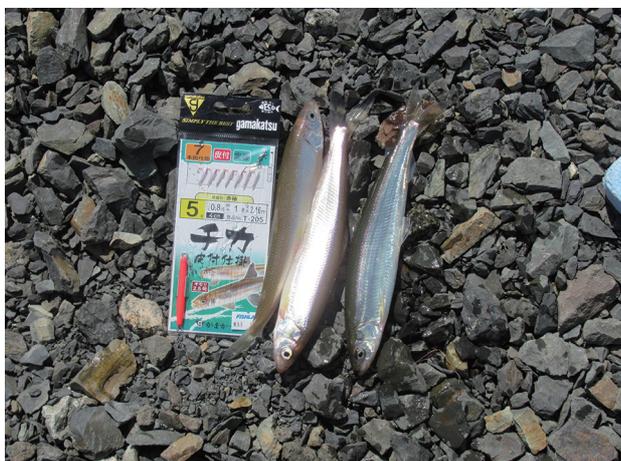


沼に群れていたオオバン

見えてきました。沢山のチカがそこにいるからと言って、どんどん釣れるわけではありません。特に産卵に集まっている群れの大部分は、餌には見向きもしないものです。またチカのサビキ仕掛けは羽根が付いているだけですから、積極的に食べには来てくれません。特にこの場所のチカはわざわざサシなどの餌を付けても釣果が上らないという特徴があります。市販のサビキ仕掛けには色々なものがありますが、私好みはサバ皮です。ビニール系の羽根は私が信用していないせいかあまり成績が良くないような気がしています。これらの疑似餌は使う側が信用するかどうかで、本当に魚がどう見ているか？とは少し違いがありますね。使う側が「これで釣れなければ今日はダメな日」と割り切れるかどうかなのです。また疑似餌によっては「これで1匹釣れると面白いよねー！」という遊び心で使う場合も多いのですが、チカ釣りではやはり「数が欲しい！」となりますからね。釣り人は色々な難しい生き物なのです。釣り場は？とか、仕掛けは？とか、明日の天気は？とか、潮回りは？とか、いろいろ



沼と水路の交点付近



釣れたチカ

考えながら釣りに行きますから、老人のボケ防止には良いレジャーではないでしょうか。さてさて今日はワカサギのような小さなものから20 cmを越える大きなものまで、さまざまなサイズのチカが釣れました。今晚は小さなチカを天ぷらにして、大きなチカは干して犬のおやつ用にしますかね。大きなチカのフライも美味しいですよ、などと考えながら遅い昼食をコンキリエで食べて帰って来ました。満足な1日でしたが帰ってひと休みすると釣った魚を処理しなければなりません。あまりに大漁ならこれが苦痛になりますから、いくら釣れているからと言って、釣り過ぎは良くありません。自分の処理能力を過信しないでくださいね。少し足りないぐらいがちょうど良いのです。せっかくの趣味が夫婦仲にひびを入れるようなことになりかねませんから。

3月24日は所用があり、北見へと行って来ました。我が家を出たのは10時頃です。気温は10℃ほどで雨上がり、雨上がりの道路は乾き始めていました。阿寒町を過ぎるころには気温が5℃ほどに下がりました。行くほどに道路は乾いてくるものと思っておりましたが、逆に濡れてきました。阿寒湖畔では気温が0℃。峠では-2℃まで下がりました。でも道路は昨日まで気温が高かったからでしょうか？凍結はしていませんでした。ホッとして相生の道の駅でひと休み。オホーツク海側は天気が良いものと思っておりましたが、逆に小雨模様で道路もべちゃべちゃでした。翌日は宿を8時に出て、美幌峠を越えました。屈斜路カルデラの中にオサツペと言う所がありますが、ここではタンチョウは見えませんでした。沢山のオオハクチョウが見られました。彼らはここから峠を越えてオホーツク海側に出て更に北上していくのでしょうか。札友内でタンチョウのペアを見て、南弟子屈では10羽ほどのタンチョウが飛んで行くのを見ました。さらに進



今年初めて見たタンチョウの抱卵

んで磯分内まで来ましたので、いつもタンチョウが営巣している場所に行ってみました。すると予想通りに沼の縁に座っているタンチョウが見え、このタンチョウから7~8m離れて立っているタンチョウが見えました。多分まだ産卵直後なのでしょう。座っているのは雌、立っているのは雄かな？と勝手に想像してしまいました。

チカが釣れていたあの水路も18日にはまだ氷が張っていて周りは雪もあったのですが、30日には全く雪らしいものも全く見えず、沼に多数いたオオハクチョウも既に北へ帰った後でした。チカはもう釣れなくなったのか、釣り人は1人だけでした。それでも少しは釣れるかな？と思い車を止め水路をのぞくと、私の前にチカの群れが見えました。早速釣りを始めましたが、少し釣れるとしばらくつれない時間があります。どうやら群れが小さいからでしょう。2時間ほど頑張りましたが、釣れたのは30匹ほどでしょうか。そろそろ干潮の潮止まりの時間です。今度は場所を変えてカレイ釣りに。昼食代わりにバナナを食べ、て、「サー、カレイを！」と思いましたが、思いのほか強い向かい風で仕掛けが飛びません。やっと釣れたのは小さなカワガレイです。1時間ほどやってやっと1匹クロガシラガレイが釣れました。痩せて卵ばかりが目立つので、食べては美味しくはないかな？と思いましたが、とても大きかったのと今季初のカレイだったので持って帰ることに。身は唐揚げに、卵は煮つけにいただきました。満足満足！



やっと釣れたカレイ

(現代漢詩)
 牛白血病態精査
 人重篤免疫不全
 発症病原近仲間
 感染経路相似形
 茶番劇的脱酸素
 甜菜由来新燃料
 栽培運搬動力源
 依存石油是如何
 国際刑事裁判所
 戦争犯罪逮捕状
 東京裁判被告国
 言動注目全世界
 脳衰大臣 偽憂乳ちじい (帯広市)

(句題) 衣更ころもか
 「衣更背丈の縮む齡かな」
とし「齡にあ応じふ時代だ後の衣更」
 「衣更
 思案の末に同じもの」
 (室蘭市 白波瀬 稔歳)